

しまねの



ひと

ひと

特集

第56号

知っていますか？

性別によるアンコンシャスバイアス

目次

「性別に関するアンコンシャスバイアスに気づこう」

杉本美晴さん (アットワンス株式会社 代表取締役、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所理事) 2

わたしの周りの性別による固定的な役割分担 5

● ポケットクイズ ミニ解説 6

● あすてらす事業レポート 6

● あすてらすからのお知らせ 8

ご存じですか?! ^{ひと}女と^{ひと}男との参画関係

あすてらすポケットクイズ

毎号、特集テーマに関連した男女共同参画に関するクイズ等を出題します。心のポケットにしまっておきたい、ポケットからちょっと取り出して伝えたい情報をご紹介します。ぜひチャレンジしてみてください。

問題

固定的な性別役割分担等に対する考え方の変化

性別に関するアンコンシャスバイアスの影響の例として、固定的な性別役割分担が解消されないことが挙げられますが(4頁参照)、「男は仕事、女は家庭」、「団体の代表は男性」など、固定的な性別役割分担等に対する考え方について、6年前の調査と比較すると・・・?

(島根県「男女共同参画に関する県民の意識・実態調査」より)

① 考え方の傾向に変化がみられた

② 考え方の傾向には、変化したものもあれば、変化していないものもある

③ 考え方の傾向に変化はみられない

※答えは6頁のミニ解説【データ編】へ

性別に関する アンコンシャスバイアスに気づこう

アット・ワンス株式会社代表取締役
一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所理事

すぎもと みはる
杉本 美晴さん

1. 「アンコンシャスバイアス」とは

皆さんは「アンコンシャスバイアス」という言葉をきいたことはありますか？最近、メディアなどでも取り上げられることが増え、きいたことはあるという方もいらっしゃるかもしれません。

アンコンシャスバイアスとは、何かをきいたり、見たり、感じたりしたとき等に無意識に「こうだ」と思い込むことです。アンコンシャスバイアスは、略して「アンコン」と言われたり、日本語で「無意識の思い込み」などと言われたりすることがあります。アンコンシャスバイアスは、「相手」に対するものもあれば、「自分自身」に対するものもあり、日常にあふれていて誰にでもあり得るものです。

自分のアンコンシャスバイアスに気づかずにいたときの判断や発言、行動が様々な問題につながる場合があります。

2. アンコンシャスバイアスに気づかなかったときの影響例

「時短勤務といえば女性」というアンコンシャスバイアスに気づかなかった方の事例をご紹介します。男性部下から、時短勤務の申請相談を受けた際に、「えっ？なんで？男性なのに？奥さんは何してる人なの？」といった発言をした結果、相手を傷つけてしまったことがあったそうです。

また、ある方は「単身赴任といえば男性」というアンコンシャスバイアスに気づかなかった結果、単身赴任という働き方を選択している母親の立場にある方に、「え？なんで？母親なのに？」といった発言で相手にイヤな思いをさせたことがあったと振り返ります。「育児や家事は女性の役割」というアンコンシャスバイアスがキャリアに影響したと振り返る方もいました。

「私の会社では、時短勤務を取得しているのは女性が多い」「単身赴任という働き方を選択しているのは

男性ばかりだった」など傾向として、「多い」「少ない」ということはあるかもしれません。また、「育児や家事は女性の役割だ」「女性は育児や家事に影響しない範囲で働くものだ」といったように自分が「あたりまえだ」と思うことがあるかもしれません。でも、少し立ち止まって調べてみたり、相手に確認してみたり、対話をかさねてみたりすると、自分自身のモノの見方に、アンコンシャスバイアスがひそんでいることに気づけるかもしれません。「これって、私のアンコンシャスバイアスだろうか？」と、その影響に思いを巡らせてみることをぜひ大切にしてみてください。

3. もしかして、私にもある？ アンコンシャスバイアス

アンコンシャスバイアスは自分ではなかなか気づきにくいかもしれません。そこで気づくためのヒントとして、いくつかの事例をご紹介します。ぜひ、「私」にはどんなアンコンシャスバイアスがあるだろうか？と、思いめぐらせてみてください。

アンコンシャスバイアスの事例

- 「赤いランドセルは女の子のものだ」というアンコン
- 「熱がでたときのお迎えは母親がするものだ」というアンコン
- 「お茶出しは女性がするもの」というアンコン
- 「育休を1年間取得する男性は、仕事への責任感がない」というアンコン
- 「これは男の人の仕事だ」「これは女の人の仕事だ」というアンコン
- 「男の子なのに〇〇が好きなのはへんだ」というアンコン
- 「私は女性だからムリ」というアンコン
- 「子どもがいない人は、残業しても問題ない」というアンコン
- 「介護中や育児中の人には、責任ある仕事は任せないほうがいい」というアンコン
- 「結婚は？子どもは？と聞くことぐらい問題ない」というアンコン

- 「“パートナー”といえば異性のことだ」というアンコン
- 「いつも、まわりにあわせなきゃいけない」というアンコン
- 「どうせ提案してもムダだ」というアンコン
- 「私には、どうせムリ」という自分に対するアンコン

ここにあげたものは、ごくごく一部の事例です。これらの事例をヒントに、ぜひ、「自分にはどんなアンコンシャスバイアスがあるのだろうか？」と気づこうとしてみることから始めてみてください。

4. アンコンシャスバイアスに どう対応するか？

アンコンシャスバイアスによるネガティブな影響を防ぐための対処法を3つご紹介します。

1つ目は、「アンコンシャスバイアスに気づこうとする」ということです。アンコンシャスバイアスは、無意識であるため自分では気づきにくいかもしれませんが、だからこそ、「これって私のアンコンかも？」を合言葉に、アンコンシャスバイアスに気づこうとしてみてください。

2つ目は、「決めつけない」ということです。例えば、「普通は○○だ」「みんな○○だ」「どうせムリだ」といった「決めつけ」の言動は、アンコンシャスバイアスの影響を受けている可能性があります。相手に対する決めつけは、相手を傷つけてしまったり、イヤな思いをさせてしまったり、相手の活躍の機会を阻むといったことにつながるかもしれません。また、「私はダメなところばかりだ」「どうせ私にはムリだ」等自分に対する決めつけは、自分の可能性を狭めることにつながるかもしれません。頭ごなしに決めつけないことを、ぜ

ひ大切にしていただけたらと思います。

3つ目は「対話を大切に」ということです。アンコンシャスバイアスは誰にでもありうるものです。だからこそ「もっと話そう」「もっときこう」といったように対話の機会を大切にしてください。対話をすることで、お互いのモノの見方の違いに気づくことができるかもしれません。まずは3つの対処法を実践してもらえたらと思います。

5. アンコンシャスバイアスに 気づいての変化事例

アンコンシャスバイアスを、完全になくすことはできませんが、新たな経験や見聞きすることにより、「上書き」はできるかと思えます。

アンコンの上書き事例

- ある上司の立場にある方が、部下に対して任せる仕事を採配する時に、「この仕事は女性にはムリだ」などのアンコンシャスバイアスがあることに気づきました。自分としては配慮のつもりでしたが、それが相手にとっては過剰配慮になっていた。そのことに気づいたいまは、一人ひとりに向き合うようになり、メンバーのキャリアの幅を広げることが出来るようになったそうです。
- ある人は、「女性の私には、管理職はムリ」と、はじめは昇格の打診を断ったそうです。でも、もしかしたらアンコンシャスバイアスかも？と気づき、そのことを上司に率直に伝えてみたそうです。上司との対話を繰り返す中で、どこを評価してもらえたのかといったことや、自分でもできることがたくさんある



すぎもとみはる

杉本美晴 さん プロフィール

名古屋市出身。大手コンピューターシステム会社を経て独立。メーカー、商社、金融機関、全国の自治体や商工会議所、大学などで、キャリアデザインを始め、ビジネススキル、コミュニケーション、CS、クレーム対応、モチベーションアップ、など女性活躍支援に関連する幅広いテーマの研修を担当。2018年の「しまね働く女性きらめき応援塾」スタート時からスキルアップ編の講師を担当する人気講師。

2019年に一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所の理事に就任し、女性活躍支援に関わる研修を始め、様々な対象者に、「アンコンシャスバイアスに気づこうとすることの大切さ」を届ける活動を行っている。

ことがわかり、昇格試験を受けてみることにしたそうです。

●ある人は、良かれと思って、育児中の後輩の仕事をいつも途中からひきとっていたそうです。でも、もしかしたらアンコンシャスバイアスかも？と本人に意向を確認してみたら、納期に間に合わせるように段取りしているので、最後まで任せてほしいと言われたそうです。良かれと思ってにひそむアンコンシャスバイアスに気をつけるきっかけとなったそうです。

●ある高校生は、「建設業界の仕事に興味があるものの、私は女性だからムリ」と思っていたそうです。でも、もしかしてアンコンシャスバイアスかも？と調べてみたところ、実際に建設業界で活躍している女性の姿を見て、私もめざそう！と思えたそうです。

このように、アンコンシャスバイアスかも？と振り返ってみると、モノの見方や行動が変わり、「気づいてよかった！」という未来が訪れるかもしれません。

6. 「これって、私のアンコンかも？」と振り返ることを大切に

アンコンシャスバイアスによるネガティブな影響は多岐にわたります(図表参照)。

とりわけ、性別に関するアンコンシャスバイアスは、「育児は女性、仕事は男性」「役員や管理職は男性」といった固定的な性別役割分担が制度的・慣行的に維持される状況をもたらす一因となり、組織や社会におけるジェンダー不平等を助長する要因となり得ます。

アンコンシャスバイアスの影響は多岐にわたる

社会・組織における影響例

- ・ジェンダー平等がすすまない
- ・固定的な性別役割分担が解消されない
- ・一人ひとりがイキイキと活躍できない
- ・人権侵害、ハラスメント問題
- ・コンプライアンス違反
- ・新しい事業・商品・技術がうまれない
- ・仕事との両立への影響(介護や治療・育児等)

個人における影響例

- ・キャリア形成への影響
- ・成長等、自身の可能性が狭まる
- ・自己理解や自己肯定感への影響
- ・人間関係のトラブルに繋がる
- ・働き方、生き方の可能性を狭める
- ・(正常性バイアス等による)災害時対応の遅れ
- ・QOL(クオリティ・オブ・ライフ)への影響

(C) Copyright All Rights Reserved. 一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所

私たちは、一人ひとりに様々な違いがあります。たとえ、これまでに会った100人が同じであるかのように感じたとしても、次にであう101人目は違うかもしれません。その違いを尊重しあい、違いがいかされていくと、一人ひとりの活躍の機会が増えたり、そこから新しい価値が生まれたりする等、モノの見方を変えてみると、いろいろな可能性がひろがっていくと思います。

アンコンシャスバイアスは、無意識であるため自分ではなかなか気づきにくいこともあるかもしれません。だからこそぜひ、「これって、私のアンコンかも？」と、自分のアンコンシャスバイアスに気づこうとしてみてください。

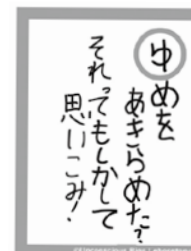
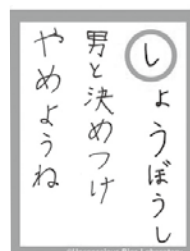
アンコンに気づこう かるたのご紹介

一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所が小・中学生からの公募でつくった「アンコンシャスバイアスに気づこうかるた」もぜひご覧ください。アンコンに気づくヒントとなる作品を公表しています。



他の作品はコチラ▶

<https://www.unconsciousbias-lab.org/karuta/>



性別による

地域&家庭編

わたしの周りの固定的な役割分担

インタビュー：キラ☆サポ※(津和野町)&津和野町つわの暮らし推進課スタッフ

※キラ☆サポは、島根県男女共同参画サポーターの愛称です)

皆さんが、地域や家庭内でこれまで身近に経験したり見聞きした固定的な性別役割分担に関するエピソードをまとめ、その後どう変化したのか、していないのかもあわせて伺いました。

変わった？

まだまだ…？



事例その①

女性はサポート役/大事なことを決めるのは男性？

葬儀の手伝いで

地域で不幸があると、近所の人たちで葬儀の手伝いをする慣習があるが、以前はこの役割が男女で明確に分かれていた。女性は台所仕事やお茶出し・給仕など裏方仕事、男性は記帳場の受付や火葬場への同行などオモテに出る役割。そもそも、そうした手伝いを含めた葬儀の手順や役割を細かく決める事前の打ち合わせは男性だけで行い男性が決めていた。一度、ご遺族と親しい間柄だったため請われてこの事前打ち合わせに姉妹で参加したところ、町会長から「女性がオモテの仕事にできるべきじゃない！」と皆のいる前で叱責された。

▶現在は…役割に対して話し合いなどが持たれるようになり、地域の皆でお手伝いの内容を決め、男女関係なく役割を担うようになった。

自治会で

ある地域では、自治会の役割が男女ではっきり分かれ、会長は男性と決まっています、その年の行事で何をするかも男性の役員のみで決めている。女性は、女子部をつくり、女子部として何をするかを決め男性たちとは別行事がある。女性代表が自治会全体の決め事の場に出席はするものの、決定には加わらない(発言を期待されていない)。若い世代の人が新たに加入する場合もあるが、このルールが今も続いている。

地域の飲み会で

サポート役を任される女性は、気が利くことも期待されている。飲み会では女性がお酌をすべき、食事の取り分けは女性がするものという思い込みが、一部の方々にはいまだ根深く、先日、講師を招いて行ったイベント後の懇親会で、「あんな、(講師の)隣に行つて注ぎんさい。」とある女性から言われた。キラ☆サポでもあるし、それはすべきじゃないとスルーしていたら、何度も促された。

事例その②

「保護者」は父親？

子どもの学校に届ける「保護者」の氏名欄は1名分。シングルマザー等女性しかいない場合を除き、父親の名を書くのが以前から当然とされている。この流れからか、PTAの会議や活動の場合も、実際には母親が主に行っているも以前は父親の名で届けるべきとされていた。

▶現在は…「保護者」欄に父親の名前という学校側の意向は変わっていないが、PTAの名簿用には、実際に活動する方の親の名を書いている。修正を求められたりはないが、「ちょっと変わった人」扱いされている気がする。そもそも、氏名欄が1名分となっているのも決めつけなのでは？

事例その③

「女性ならではの」って？

議会や各種会議でも、女性はまだまだ少数派。とはいえ、少なくとも公的な場では「女は黙っとけ」という(以前のような)空気はなく、男女関わらずどの意見も尊重されるという大前提はしっかり守られている。ただ、意見を求められる時に、「女性の視点で」とか「女性ならではの感性で、お願いします。」という前置きがつきがちなのはモヤモヤしますが…。女性の意見ではなく、私の意見です。

事例その④

女性(妻、母)は家事をするのが当然だから…？

夫の家事は「お手伝い」

全く／ほとんど家事をしなかった頃を思えば、やってくれるようにはなったが、「お手伝い」レベルにとどまっていて、言われたらやる、決まったことだけやる程度。主体的にはやらないし、そもそもどんな家事があるかの全体をわかっていない。たまに、自分で気づいてやった時には、「あれをやっといた」とわざわざ主張。妻である自分は、それをほぼ毎回やっても感謝されるどころか、忘れた時には「何でせんかった？」と注意されていますが…

夫の家事は「特別」？

●洗濯物干しを嬉しそうにやる夫。それを見た近所の人に褒められるからか、家の中でするより外から「見える」家事の方が気に入っている様子。でも、干すの月に1回だけですけど。

●ゴミ出し=夫と決めている。近所からは「お宅はご主人がゴミ出ししてるのね」と言われるが、出すのを忘れた時に、「お前が『今日はゴミの日』と教えなかったから」と文句を言うことや分別は全くしないことは知られていない。

妻がするから「名もなき」家事？

消耗品の補充や買った物を所定の場所にしまう等は、妻が「自然に」行うことが期待されていて、夫は妻がどんな見えにくい家事をやっているか気づいていない。たまに、気づいても、「おい、〇〇が切れてたぞ。(買っとけ)」とか、「(使い終わった)インクカートリッジ、特殊ゴミだからな。(その日に忘れず出せ)」と言うだけ。

取材後記(女性センタースタッフより)

地域や家庭での固定的な性別役割分担は、表だってルール化・文章化されない「暗黙の」ものだからこそ、一朝一夕に変えるのが難しい。地域では「男が上(オモテ)、女は下(ウラ)」が少しずつ変わってきたものの、まだまだこれから変わってほしい思い込みもあり、過渡期を感じさせました。一方「男は仕事、女は家事・育児」を前提とする教育を受けてきた世代の夫婦の役割分担の方も、なかなか根深いものがある。主体的に家事をしない夫に不満はあるものの、「自然に」やっつけてしまっているのは、ひょっとして自分の中にアンコンがひそんでいるからかもと、自身を振り返るきっかけにもなったインタビューでした。

ポケットクイズ ミニ解説 【データ編】

【問題】 固定的な性別役割分担等に対する考え方の変化

答え

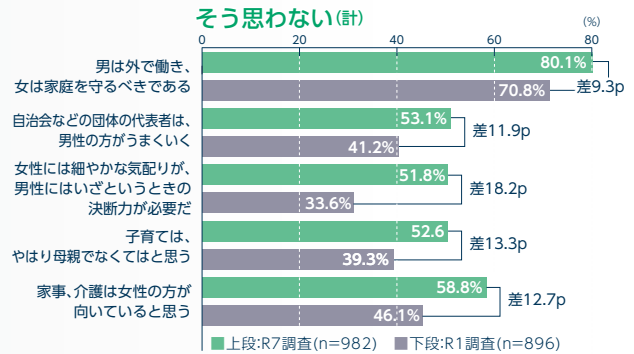
① 考え方の傾向は変化している

島根県では、5年ごと^(注)に男女共同参画に関する意識・実態調査を実施し、毎回グラフで示したように様々な性別役割に関する考え方について、そう思うか否か4択で尋ねています。直近の調査(以下R7調査)を令和元年に実施した前回調査(以下R1調査)と比較すると、いずれの考え方についても「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合計した否定的な選択をした割合が高くなっています。

また、もともと否定的な割合が7割以上だった「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考えに否定的な人がR7調査で8割を超えたのを始め、それ以外の4つの考え方についても否定的な割合が大きく増加し、初めて5項目すべての考え方に否定的な人が過半数となりました。

固定的な性別役割分担等に対する様々な考え方について、いずれも否定的な人が過半数に増えたという調査結果からは、男女共同参画に向けた着実な啓発の取組の成果とも読み取れる部分がありますが、他方、5頁のインタビュー記事にもあるとおり、固定的な性別役割分担の慣習、継続も示されています。ここで挙げられている固定的な性別役割分担には、アンコンシャスバイアスが潜んでいる可能性も考えられます。しまね女性センターでは、各種事業を通じて、アンコンシャスバイアスに気づこうとすることの大切さを始めとした、様々な取組を進めてまいります。

(注)R1 調査から R7 調査は、コロナ禍の影響で6年間隔。



あすてらす 事業レポート

※近年力を入れている「防災と男女共同参画」をテーマとする事業を紹介します。

アクティブ
サポーター
養成研修

災害可能性の高まりとも相まって、男女共同参画サポーター(キラ☆サポ)対象の研修では、数年おきに「防災と男女共同参画に関する活動促進」をテーマに実施しています。今年度も、キラ☆サポが市町村と連携し、地域のキーパーソンとなって啓発活動を主導するためのスキルと意欲の向上を目的に、松江と浜田の2箇所で開催を実施しました。

【男女共同参画視点のファーストミッションボックス®をつくらう!】

ファーストミッションボックス®(以下FMB)とは?

防災や避難所について特別な知識や経験がなくても、誰でも避難所の開設ができるよう、初めに(ファースト)やるべき任務(ミッション)を記載した手順書と、最低限必要となるものを入れた箱(ボックス)のこと。災害時の不安な状況でも、箱を開けた人が手順書を読みれば速やかに行動できるよう、具体的な指示が分かりやすく書かれています。(考案:危機管理教育研究所&飯田市危機管理室)

●とき 浜 令和7年10月20日(月) 13:00~16:00

●ところ 田 浜田まちづくりセンター 研修室

●とき 松 令和7年10月21日(火) 13:00~16:00

●ところ 江 松江市市民活動センター 交流ホール

●主催 島根県、(公財)しまね女性センター

●共催 松江市(松江会場)、浜田市(浜田会場)

○講師 くにざきのぶえ 国崎 信江さん

(危機管理アドバイザー、株式会社危機管理教育研究所 代表)

○内容 講義と体験ワークショップ

①講義「地域防災力強化をめざして
~男女共同参画視点にもとづく防災対策~」

②FMBを使用した簡易訓練

③FMBづくり体験

(地域の公民館での避難所開設を想定したワーク) 講師の国崎信江さん



講師の国崎さんは、能登半島地震でいち早く被災地支援に入られたご経験をもとに、避難所ごとに実際にあったサービスや環境整備の格差をなくし、どの避難所でも多様な人たちが必要な設備や物品等のサービスを受取るために、女性が主体的に運営に関わる必要を具体例を交えて解説されました。FMBを用いた簡易訓練では、この研修のために国崎さんが作成された島根版のFMB指示書をもとに、皆が現実さながらに臨み、その後の各地域の実情に応じたFMBづくり体験に繋がっていました。

長年、災害はじめあらゆるリスク管理のアドバイザー、コンサルタントとして活躍中の講師による貴重な指導の機会ということで、参加されたキラ☆サポと市町村担当者は意欲的にプログラムに取り組み、自分たちの地域でも取り入れたいとの声がいくつも挙がっていました。



指示書を地域事情に合わせて変更するワーク

毎年、島根県内の各市町村と在住の男女共同参画サポーター(キラ☆サポ)との協働で企画・運営する本事業ですが、今年度は2箇所ともテーマを「防災と男女共同参画」で実施しました。

安来会場

【やすぎ防災ひろば2025～みんなで学ぶ安心づくり～】

- と き 令和7年8月30日(土) 10:00～12:30
- ところ 安来市役所防災研修棟
- 主催 島根県、(公財)しまね女性センター
- 共催 安来市、
島根県男女共同参画サポーター(安来市)

○内容

(1) ミニ講義「男女共同参画視点の防災」

情報提供：しまね女性センター

(2) 防災ワークショップ

① みんなで「防災バッグ」を作ってみよう

ファシリテーター：おがさわら ともえ さん
(防災士、フリーアナウンサー)

② みんなで「避難計画」を考えよう

ファシリテーター：安来市内の女性消防団員、
防災士

③ 防災食の作り方と試食をしてみよう

ファシリテーター：にしもと あつこ さん
(防災共育管理士、
備蓄防災食調理アドバイザー)



避難経路を考えるワーク

これまで、防災に関する様々な研修や啓発事業を主体的に積み重ねてきたキラ☆サポの皆さんの発案により、今回の事業は、より実践的な対応力を身につけるためのワークショップ中心で企画!当日は50名近くの方々が、3種類全ての体験型ワークに熱心に取り組みました。防災バッグづくりでは、準備するものの優先順位やあると便利なものを知った上で、実際にバッグの中身を考え背負うまでを試したり、避難経路を考えるワークでは、安全面と距離とのバランスに頭を悩ませたり、防災食づくりのデモンストレーションでは、非常時にもできる調理法や常備食材を学びました。どのワークも命に関わる大事な視点がいっぱい!「安心づくり」のために、日頃から準備しておく大切さがしっかり実感できるイベントとなりました。

津和野会場

【一人ひとりが考える わたしの防災】

- と き 令和7年11月16日(日) 9:30～12:00
- ところ 津和野町役場本庁舎 2F 会議室5・6、
3F(本庁舎避難所)
- 主催 島根県、(公財)しまね女性センター
- 共催 津和野町、キラ星つわの
(島根県男女共同参画サポーター)

○内容

(1) 説明「津和野町における防災の現状と課題」

(津和野町総務財政課)

(2) 講演「多様な視点で取り組もう! きっと役立つ防災セミナー」

講師：さいとう ようこ さん(関西国際大学客員教授)

(3) ワークショップ

「避難所と備蓄品を確認し、
各自が必要な備えをしよう」

進行・実演：しまね女性センター、津和野町総務財政課
助言：斉藤容子さん



講師の斉藤容子さん

津和野町では、男女共同参画視点での防災というテーマで啓発事業は初めて実施するとし、まずは基本をしっかりと学ぶため、

災害時の支援経験の豊富な講師を選定したり、この事業に先駆けて避難所運営に関する事前研修を行うなど、キラ☆サポを中心に熱心に準備を進めました。

講演では、女性や子ども、高齢者、障がいのある方々等、配慮が必要な方々が命に関わる困難な状況に陥る現実を実例やデータをもとに紹介され、こうした方々を含む多様な属性や事情が配慮され、安心して避難生活を送るためには、男女共同参画の視点が重要だということが説得力を持って示されました。また、災害時のトイレの備えについての解説は具体的で臨場感もあったため、後半のワークでは、携帯トイレやラップ式トイレの使い方についていくつもの質問が挙がるなど、30名の参加者の皆さんは真剣そのものな様子でした。

あすてらすからの

お知らせ



4月・5月の「あすてらす上映会」

入場無料

しおり
「**栞**」

●日 時 2026年 4月18日(土)
14:00~
(2017.日本 118分)

●定員 290名



© 映画「栞」製作委員会

「**とりつくしま**」

●日 時 2026年 5月16日(土)
14:00~
(2024.日本 89分)

●定員 290名



©ENBUゼミナール

予告 「あすてらすフェスティバル2026」準備中です！

映画上映&トークイベント

●予定日 2026年 6月20日(土)

※詳細はおってお知らせします。

島根県より アンコンシャス・バイアスについて

島根県では、男女共同参画社会の実現に向けて、性別による固定的な役割分担意識やアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)が根強く残っている現状の解消への取組として、島根県のホームページ内に専用ページを作成しています。ぜひご覧ください。



詳しくはこちら▶

URL : <https://www.pref.shimane.lg.jp/life/jinken/danjo/danjo/danjokyoudoujouhou/annkonkaisyou.html>

内容

- 1 アンコンシャス・バイアスとは
- 2 わたしたちができること
 - ステップ1 アンコンシャス・バイアスの理解を深めよう
 - ステップ2 自分自身にアンコンシャス・バイアスがないか考えてみよう
 - ステップ3 アンコンシャス・バイアスを意識して、行動や会話を換えよう
- 3 島根県の取組
- 4 アンコンシャス・バイアスに関する国の取組



島根県立男女共同参画センター

あすてらす

〒694-0064 大田市大田町大田イ236-4 (JR大田市駅西隣)
TEL 0854-84-5500(代) FAX 0854-84-5589
ホームページアドレス <https://www.asuterasu-shimane.or.jp>

利用のご案内 ((誰でも気軽に利用できます!))

- 開館時間 / 9:00~19:00 (貸出し施設については21:00まで)
- 休館日 / 毎週月曜日・国民の祝日、年末年始(12月29日~1月3日)